

# 指導資料

鹿児島県総合教育センター  
平成30年10月発行

# 外国語 第88号

対象	中学校	義務教育学校
校種	高等学校	特別支援学校

## 英語で表現する力を高める指導の工夫 ープレゼンテーションの活動を通してー

英語で読んだり聞いたりして得た情報を基に、経験に基づいて自分の考えや意見を相手が理解できるように書いたり話したりする力を身に付けさせる必要がある。そこで、授業でできるプレゼンテーションの取組について実践例を基に紹介する。

### 1 はじめに

英語の学習においては、読んだり聞いたりして得た情報を基に、経験に基づいて自分の考えや意見を書いたり話したりすることが必要とされてきたが、2020年度の大学入試改革で4技能を測る試験が導入されることになり、その必要性は更に高まったと言える。

また、学校や職場の会議等における様々な場面でプレゼンテーションが相手を納得させる交渉術の一つとして重要な役割を果たしており、生徒にとっても今後役立つ重要な手段となる可能性は高い。

新しい学習指導要領では、「話すこと」が「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」に分けられ、以下のように示されている。

「中学校学習指導要領解説外国語編」

「(2) 話すこと [発表]」の目標ウでは、社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

「高等学校学習指導要領外国語編・英語編」

「英語表現Ⅰ」に代わる科目として「論理・表現Ⅰ」が示され、「(2) 話すこと [発表]」の目標イでは、「日常な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。」

平成29年度英語力調査結果(中学3年生・高校3年生)の概要」においては、以下のよう

- 「話すこと」の調査結果とのクロス集計を見ると、得点が高い方が「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていた。」と回答する生徒の割合が高い。
- 学習指導要領で示されている、「与えられたテーマについて簡単なスピーチ」や「まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る。」などの言語活動を行っている学校の方が、生徒の「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の得点が高い。

これらの報告からは、聞いたり読んだりした内容について話したり書いたりするなど、技能を統合的に活用させる活動を授業の中に積極的に取り入れる必要があることが分かる。4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力育成の一つの方法として、当センター指導資料の外国語第84号においては、リテリングの取組について紹介した。本稿では、更に相手を意識した活動としてプレゼンテーションについて紹介する。

## 2 プレゼンテーションとは

学習指導要領解説の論理・表現 I の目標によると、「プレゼンテーションとは、聴衆に対して情報を与えたり提案したりする活動である。プレゼンテーション（以下、「プレゼン」という）を行う際は、写真や実物、ポスターやスライド、タブレット端末などの視覚的な補助を活用することで、聞き手の注意を引き、理解を深め、発表をより分かりやすくすることも効果的である。」と定義されている。

プレゼンの指導については、その内容（提案や情報）と発表方法という二つの面があると考えられる。そこで、これらについての指導のポイントを以下で述べる。

### (1) プレゼン内容（何を伝えるか）

プレゼンの内容は、表 1 アのように全員が共有しているレベルから、表 1 カのように他の人は知らないというレベルまで多岐にわたる。つまり、information gap のある活動となる。プレゼン内容を「(聞き手にとって) 既知－未知」、「身近－社会的」、「(他の人と) 同異」という軸で考えると、表 1 のようにアからカへとレベルを変化させ、段階的に取り組ませることができる。カの段階になると外国語という教科の枠を超え、他教科等との関連性も高くなり、時間的にも作業的にも負担は大き

くなるが、課題研究という観点から考えるとより効果的なものとなる。

### (2) 発表方法（どう伝えるか）

プレゼンでは、ビジュアル面と発表技術の 2 点により、伝えたい内容がどの程度理解しやすいかが変わってくる。例えば、表 1 のアのように生徒全員で教科書のあるレッスンを学んだ後に、その内容を伝える「ポスター発表」をクラスで行ったとする。生徒の発表の「理解のしやすさ」は、ポスターのデザイン（情報の配置、色）などのビジュアル面で変化するし、また、使う英語の分かりやすさ、声の大きさや話すスピード、間の取り方など、発表技術によっても変化する。そのため、プレゼンを始めたばかりの段階では、生徒は発表方法に集中でき、取り組みやすい。

なお、発表形態は、実物（または写真）を見せて行う発表（show and tell）、ポスター発表、パソコンのプレゼン用ソフトを使っでの発表と大きく三つに分けられるので、各形態に少しずつ慣れさせていくのがよい。PC 環境が整っていない場合は、実物（写真）およびポスター発表（B4 の紙にペンで書いて作ったもの）が取り組みやすい。実際の授業では、B4 や A3 の紙で教室の壁や窓、黒板に貼って、ポスターセッションとして実施すると生徒も楽しみながら取り組むことができる。

表 1 プレゼン内容に関する表

	プレゼン内容	(聞き手にとって) 既知－未知	身近－社会的	発表内容が 他の人と同異
ア	教科書の同じ課（レッスン）の内容を皆で発表する。	既知	社会的	同じ
イ	教科書の 1 学期に習った課（レッスン）の中から一つ選んで、その内容を発表する。	既知	社会的	同じ
ウ	自分の好きな場所について発表する。	未知	身近	異なる
エ	自分の学校が修学旅行で行くべき場所について、自分の意見を発表する。	未知	やや社会的	異なる
オ	SDGs (Sustainable Development Goals) 17 の目標の一つについて発表する。	未知	社会的	異なる
カ	課題研究について発表する。	未知	社会的かつ専門的	異なる

### 3 指導について（支援をどう変化させるか）

表1のアからカまで段階的に指導をする場合、プレゼン内容と発表方法のどちらに焦点化するかは、生徒の実態に合わせて、活動しやすいようにするとうまくいくことが多い。プレゼン内容については、教科書などの習った範囲から始めると導入しやすく、発表方法の練習にもなる。なお、リテリング活動を導入した後であれば更に取り組みやすい。また、最初の段階では、活動に慣れていないため、ポスター発表を導入しても色の使い方や情報（図表）の配置がうまくできなかつたりする。回数を重ね、その度に上手な生徒のポスターをクラス全体で共有すると、ポスターの表現技術は徐々に改善される。全体的に改善する

ポイント（写真を多用する、字を大きくしキーワードだけ書いて発表する等）を端的に一つか二つに絞って示すと、生徒は理解しやすく、改善しやすい。

ポスター作成後の練習は、ペア、グループ、全体の順で行うとうまくいく。ペアだと失敗しても許容されやすいし、楽しい雰囲気を取り組むことができる。慣れてきたら、グループ活動にし、最後は教室を移動しながら、互いにポスター発表を行う方式がよい。なお、どういう発表が良いかを生徒に理解させるために、また、聞き手の態度を育てるためにも表2のような学習到達度を示す評価基準を観点と尺度からなる表として示したルーブリックを作って相互評価させることも重要である。

表2 ルーブリック項目例

criteria \ points		4 Excellent	3 Good	2 Fair	1 Poor
Content	Main idea	Very Clearly stated and well developed. Very easy to follow.	Clearly stated and developed. Easy to follow.	Main idea is not clear. Difficult to follow.	No explanation or no main idea.
	Structure	Very well organized, following proper structure.	Well organized, following proper structure.	Not well organized and/or weak supporting part(s).	Poor organized and/or no supporting part(s).
Design (Visual Aids)		Very clearly supports the main idea and details. Designed very well.	Clearly supports the main idea. Well-designed.	Supporting main idea but not easy to follow. More effort is needed.	Not supporting main idea. Effort cannot be seen.
Comprehensibility (Voice and volume)		Voice is very clear and loud. Very easily understood.	Voice and volume are good. Easily understood.	Voice is not clear or too small volume. Difficult to follow.	Nobody can hear or understand.

### 4 ポスター発表の実践例

#### (1) ポスター発表に関する授業計画

ポスター発表を実施するに当たっては、表3に示すような指導計画が考えられる。ここでは、ポスター発表に2時間（第5・6時）を割り当て、全員の発表と生徒同士の相互評価の充実を図っている。

表3 ポスター発表の実践例（県立甲南高等学校 有嶋 宏一 教諭の実践例を基に作成）

時間	学習内容
1・2	SDGsについての概要説明およびSDGsの目標を確認する。
3	目標1「No Poverty（飢餓をなくそう）」について、皆で内容を読み、各自でポスターを作成。先輩たちの課題研究などのポスター例を見て、どのようなポスターが良いか話し合い、まずはB5で下書きを作成する。
4	ペア、グループで下書きを基に発表して改善点を確認し、その後、改善作業を行う。
5・6	クラスを半分（AとB）に分割する。5時間目はAが発表し、Bが聞く形式、6時間目はBが発表し、Aが聞く形式をとる。聞く側は、発表内容に関する質問を行うと同時にルーブリックを基に評価をする。
7	優秀な作品を発表し、どこがよいか、また改善点は何かを生徒に考えさせながら確認する。

## (2) 今後の指導

今後は、SDGsの各目標2から17のうち各自一つずつ選択し、ポスターを作成後発表する。何度も繰り返すことで、生徒の発表のスキルは少しずつ上達すると感じている。また、県立甲南高等学校では、課題研究でパソコンを使用したプレゼン発表やA1のポスター発表の形式で行っている。

また、この形式で学んだ生徒が、後輩の発表に対し、「ナンバリングすべき」とか、「図表を更に分かりやすくすべき」など、改善点を指摘する場面を何

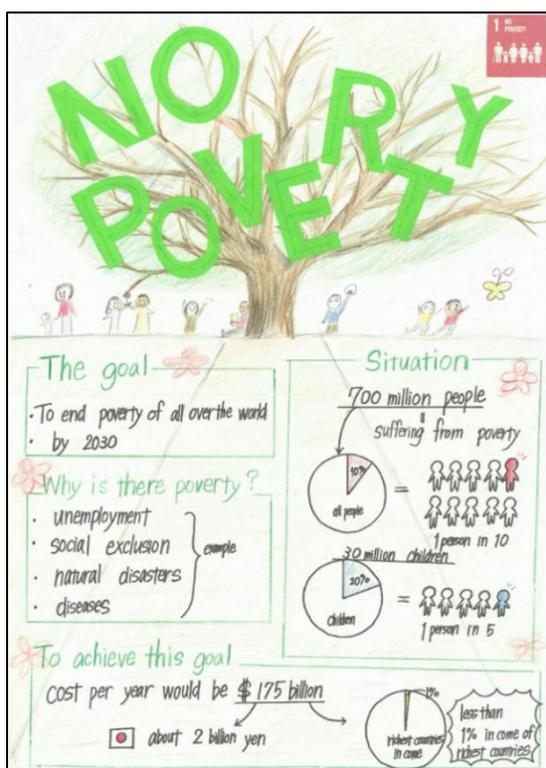


図1 生徒の作品例①

度も見ている。このように繰り返し授業で学ぶことが、生徒の話すこと〔発表〕について、英語だけでなく、「聞き手の理解を考えた発表」にもつながるのではないかと考える。図1、2はポスターの例である。このように同じ学習内容について発表する場合でも、生徒によってポスターや発表内容は異なることが分かる。生徒は、図や絵、グラフなどを使ったポスターを作成することで、英語力以外の得意分野を披露することができ、多くの生徒に活躍の場与えられる。

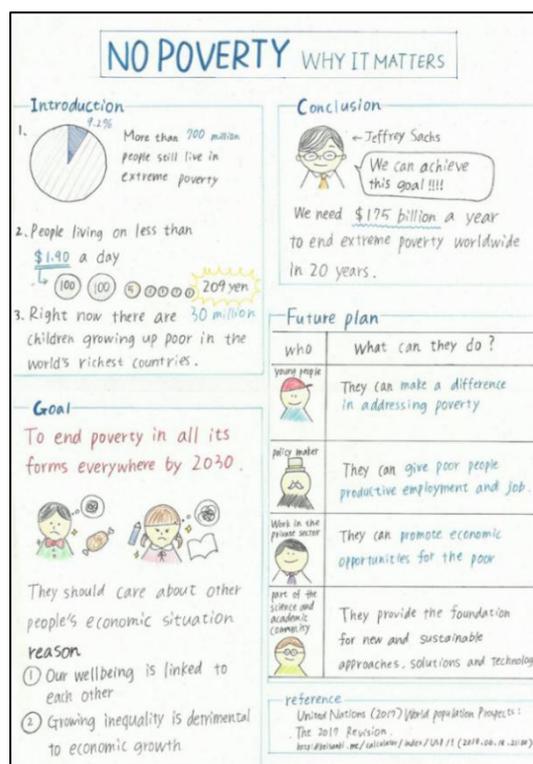


図2 生徒の作品例②

## 5 まとめ

英語の授業でこれまでプレゼンテーションなどの言語活動があまり行われてこなかった理由として、

- ① 年間指導計画の中で時間的な余裕がない。
- ② 教師がスピーチ原稿を添削するのに時間がかかり、継続して取り組めない。
- ③ 「話す」活動の評価の割合が低い。

などが考えられるが、背景にある理由として、高等学校や大学の現在の入学試験に「話すこと」が課せられていないということも挙げられる。しかし、今後の大学入試改革への対応

やこれからの社会の状況を考えてみると、英語でのやり取りを含め、「話すこと」の言語活動を年間指導計画に位置付け、計画的・継続的に行う必要がある。

—引用・参考文献—

- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編』平成30年7月、開隆堂出版
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説外国語編』平成29年7月、開隆堂出版
- 文部科学省『英語教育改善のための英語力調査事業』平成30年4月
- 伊藤治己著『アウトプット重視の英語授業』平成24年2月、教育出版（企画課 常山 隆光）